

スタンダードプリコーション(標準予防策)

スタンダードプリコーションとは

スタンダードプリコーション=感染症の有無にかかわらず全ての患者を対象に、以下のものを感染の可能性のある物質としてみなし、対応する予防策のこと。

イ) 血液 (ロ) 傷のある皮膚 (ハ) 粘膜

ニ) すべての体液(汗を除く) → 喀痰、排泄物(尿、糞便、吐物等)、膿、胸水・腹水 等

★スタンダードプリコーションを実践することで、未知の病原体からも暴露を防ぐことができます。

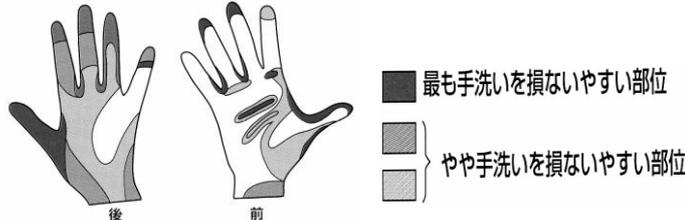
予防の具体的な方法

- (1) 手洗い(手指消毒)
- (2) 咳エチケットの実施
- (3) 手袋の着用
- (4) その他の防護具の着用(マスク、ガウン、ゴーグル等)

手洗い(手指消毒)

★すべての医療行為の基本となり、感染防止に対して一番大きな役割を果たします。

①洗い残しが起こりやすい部位



Taylor LJ: An evaluation of handwashing techniques-1, Nurse Times 12:54-55, 19

②手洗いの方法

★目に見える汚れがある時、血液や体液で汚染された時 → 「石けんと流水」できれいに洗う。

★目に見える汚れが無い時 → 擦式アルコール製剤「ヒビスコールSジェル」を使用。

③手洗いの種類

種類	方法	場面
日常的手洗い	石けんにて10~15秒間以上洗浄	排泄後、食事前、手袋をはずした後等
衛生的手洗い	石けん、擦式手指消毒薬等にて10~15秒間以上手指をこすり洗いする	傷や粘膜に接触する前後、感染または保菌患者に接触後等
手術時手洗い	石けん等で120秒間以上ブラシでこすり洗いするか擦式手指消毒薬等で20秒以上擦り込み手指を消毒する	手術前

④手洗いの基本

★手袋装着の有無に関わらず、血液・体液・分泌物・排泄物に触れた際は手指消毒を行う。

★患者様と接触する前後や手袋を外した直後、また、同一患者様であっても、異なる処置等を行う際には消毒薬(擦式手指消毒薬を含む)を行う。

★手袋を破損させないため、爪先を完全に洗えるように、爪は短くしておく。

⑤手荒れの防止

★荒れた部分に細菌が定着し、交差感染をおこすので以下に留意すること★

イ) 手荒れや手に傷がある場合には手袋を着用する

ロ) 皮質の除去につながる温水の使用は避ける

ハ) 強くこすらないように拭き、完全に手指を乾燥させる

ニ) 十分な水で石けんを完全に洗い流す

ホ) 日頃からハンドクリームやローションでハンドケアをする

咳エチケット

★咳・くしゃみの際は口を覆い、その後手洗いを実施する。

手袋の装着

★体液、血液、傷のある皮膚・粘膜に接触する可能性のある場合手袋を装着する。

★異なる患者様を処置する際は手袋を交換する。

★同一患者様でも、汚染された手袋のまま次の清潔な処置をしない。

★汚染面に触れないように手袋を外す。

★手袋は手洗いの代用にはならないので、外した後は手洗いをする。

その他の防護具の着用

★血液・体液が、飛散・はね返などの可能性や、接触感染予防が必要な微生物が検出されている患者様の処置等時に着用。

★眼鏡をかけていてもゴーグルは必要。